

六月三十日(火)午後三時

大祓式

茅の輪くぐり神事

※ 神事にはご参列頂けませんが、時節柄、それぞれマスク着用や社会的距離等のご配慮をお願い致します。



みんなで祈ろう コロナの終息

「伊奈富神社の創祀と疫病の終息」

伊奈富神社の御創祀は古く、今より二千百十二年前の崇神天皇の五年に遡ります。我が国最初の正史とされる『日本書紀』には崇神天皇の五年、国内に疫病が流行り国民の大半が犠牲となつたとの記録があります。翌六年に日本大國魂神、大物主神、諸神を祀り、七年に終息しました。

うけもちのかみなをとおおくにみちのみこと

『日本書紀』の記録にはありませんが、当社の御祭神である保食神那江大國道命が崇神天皇五年に現在の地に祀られたのは、この出来事に関するものと思われます。当時、崇神天皇はこの疫病の終息に心身を碎き、誠の心でもって国内の神々を祀り、その一つがこの伊奈富神社でした。

大祓式とは日常において知らず知らずに犯した罪、心身の穢れ、一切の災厄を消滅させ、人間本来の清浄な姿をとりもどし、平穩無事な生活を期待する日本古来の習わしです。六月三十日(夏越)と十二月三十一日(年越)に行われ、当社では特に夏越の大祓式には茅の輪を構えて行います。新型コロナウイルス感染症に身も心もまさに「気枯れ(ケガレ・穢れ)」てしまった我々の生き生きとした日常に直るべく、本年も謹んで斎行致します。

奇しくも本年令和二年は、この崇神天皇の記録が残る『日本書紀』の編纂から千三百年の節目の年となります。この国難とも言ふべき難局を皆様の祈りと忍耐で乗り越えて参りましょう。

伊奈富神社

電話 〇五九一三八六一四八五二